



No.8. 2021. 10. 29

火遊びと火起こし

浅間山に冠雪が二度も積もり、焚き火の暖かさが心地よい季節になってきました。10月の寒い日の朝、焚き火台に火を付けていると登園した子ども達が火吹き棒や火ばさみを持って来て焚き火の番を始めました。子ども達が慣れた手つきで火を起こしていると、保護者の方たちも火の前で足を止め始めました。焚き火の前で暖をとりながら「こうやって子どもが自由に火を扱えるって良いですよね～。」「なかなかこうやって出来るとこないですもんね。」と話をしながら、以前子ども達と火起こしをしていた時にふと「ゆうすけっちは火傷したことある？」と聞かれたことを思い出しました。その子どもの視線は少し不安気にじっと見つめています。周りの子ども達もその問い合わせに黙って耳をすましています。「火傷したことあるよ。」と言うと「いつ？どこ？」と前のめりに質問が返ってきました。「いっぱい火傷したことあるよ。」と返事をすると「俺もね～。ここ火傷したことあるんだよっ！」と腕をまくって見せ、また別の子も「俺も！俺も！」と武勇伝のように火傷の自慢話が始まりました。以前までの自分は子どもに火傷をさせてはいけないという思いが強くあり、火起しをする際には大勢の子どもが近づかないように火の周りに囲いを作ったり、火起しをする子どもは少しずつ順番に火の前へ立てるようしたり経験よりも怪我をしないようにという事を優先に考えてやっていた様に思います。木材を焼べるタイミングも大人が指示をして、子どもが怪我をしない事を意識するあまり子どものやりたい気持ちや行動を制限し、安全性を守った中での火起し。何だか矛盾している様な気もしますが、子どもを守る事を優先し大事な経験部分を置き去りにしてしまっていました。今でも日々の関わりの中でその名残が残っていて口うるさくなっていた事があったのでしょうか。最初の子どもの「火傷した事ある？」という不安気な眼差しはそんな現れだったのか。

ぴっぴに来てからは自分たちで出来る事、やりたいと思った事は任せる様にしていると思っていたのですが、今でも口うるさい事がある様です。また別の子どもには「ゆうすけっちはダメダメ星人だからね。」と言われた事もありました。それはまた違う日に火起こしをしていた時、その日はくりの男の子たちが火の周りに集まっていました。くりの男の子達は木が燃えていく様子をじっと見つめています。すると、1人の男の子が何か閃いた様に水道へ向かいペーパータオルを濡らして焚き火台の前へやってきました。そして濡れた紙を火の前で広げだんだんと紙が乾いていく様子を楽しんでいました。その楽しそうな遊びに1人、また1人と男の子達が濡れたペーパータオルを持って火の前へ集まり始めました。楽しそうな子ども達の様子と、

火で遊び始めた子ども達の姿との狭間で自分の心は揺れました。そして自分が子ども達に放った言葉は「火起しするなら良いけど、火遊びはダメだよ。」でした。子ども達は一斉に手を止め持っていた紙をクシャクシャに丸めてゴミ箱へ放り投げ、しばらくは火を眺めていましたがそのうち1人、また1人と火の側からはいなくなっていました。ゴミ箱には散乱した無数の紙屑が残り、これで良かったのだろうかと心にモヤモヤを残したままゴミ箱の紙屑を見つめしていました。すると、そこには焦げた紙屑が1つもない事に目が行きました。子ども達は濡れた紙を焦がさない様に、紙が乾くギリギリを上手に加減しながら遊んでいたのだと気が付きました。子ども達の経験を止めてしまったのか、しかし火で遊び始めエスカレートして行ったらどこまでを許容し、どこから止めるのかタイミングが難しくなるという思いもあり、何より紙も限りある資源なので乱雑に扱って欲しくないと今でもどんな関わりが良かったのか答えが出ないまま迷っています。

「火遊びはダメだけど、火起こしなら良いよ。」と声を掛けたのは自分の中での境界線を作る為だったのか。だとしたら火遊びと火起こしの境界線って一体どこなのだろうと迷いは深まるばかりです。

先日の保護者会でも話題に上がった“待つ”について。今でも子どもから「うるさい。」と言われるほど口出しの多い自分ですが、これでもぴっぴへ来てから口出しあいぶ少なくなった方なのです。なんで待てるようになったのか自分なりに振り返ると、1番は共に過ごす仲間の環境だと思いました。今まで口出しが多くなっていた要因は周囲の視線が気になり、周りから自分がどう思われているかを気にして結果子どもとの関わりに影響が出ていた様に思います。2つめは時間的余裕がある事。何時までに何かをしないといけないという時間に制約が出来、時間に迫られると子どもを急かすような声かけをしていました。この2つがぴっぴでは充実しているからゆったり、たっぷりと待つ事ができるのだろうと感じていました。

しかし、今回この文章を書きながらもう1つ1番大切な事があるのではと思い始めました。それは子どもを信頼する事。子どもの行動を信じて任せる。とは言っても自分の心の許容量はまだまだ小さいのでそれが出来るようになるまでは時間が必要そうです。これからも子ども達とたくさん葛藤しながら少しづつ待てる時間を長く、口出しを少なくしていけたら良いなと思っています。

：菅 悠介

森のみちくさ おいしいお話

11月

森の木々が「ぐれづれ」やがき、ざーっと風とともに「ポトン、ポトン…」とどんぐりが落ちてきます。子どもたちの「ポケット」から「どんぐり」がころんころんと落ちてくる季節でもありますね！ 子どもたちが帰って静かになると、「どんぐり」の木の下に、今度はカエスたちの姿が。口には「どんぐり」をくわえ、秋の間に冬への蓄えをしていきます。集めると「どんぐり」の数は100個近くもあるそうです。1つ1つ違うところに驚き、まれに忘れられた「どんぐり」が芽生えて、森に広がります。親の木の下では日陰になってしまい3年ほどで枯れてしまうので、カエスに運ばれることで森が広がるとか。不思議な自然のつながりですね！ : 葉々惠



どんぐりコーヒー

昔、ヨーロッパでコーヒー豆が輸入できぬ時、代用として飲まれていた飲み物。マテバシイや

スダジイが適してますが、ひひの森にもあるコナラもアツをぬけてOK！
子どもたちが袋いつぱい持ってきたらぜひ、チャレンジしてみて♪

1. どんぐりの殻をむく
2. スライス or 4等分にする
3. 水にさらす。4~5回ほど水をいれかえ、一晩水につける
4. 天日に干す

5. フライパンで20分ほど空煎り！色がついたらOK！
6. ミルで粉状に。

… 粉はクッキー、パン、クリーム等に王手で使えます。

スキナスユーン

コーヒーのお供にこなたにおやつはいかが？

スキナを天日干して、ミルやすりばらで粉状にしてスコーンの材料に混せてやくと、優しい

黄緑色の
スコーンが
できますよ。

スキナの効能
毛髪・皿の保形
気管の不快解消
生理痛・不正出血
の緩和
デトックスなど。



おとなのはせ

先日は、秋晴れの気持ちのよいお天気の中、稻刈りを無事終えることができました。しかも あっという間に!
みなさま ありがとうございました!!
今年のザックザックの感触、わらでキュッと束ねる感触(はいかか)だったでしょうか。
余韻に浸りながら“稻刈りの今昔”をみてみると…

- 江戸時代…すべて人の手でやっていました。金鎌を手に稻を刈り、はざにかけて乾燥させていました。糲搗りも、うすを回してすり落としていました。
- 昭和30~40年代…コンバインが普及するまでは、昔ながらに手で稻刈りをして、乾燥も天日干していました。
※天日干しのことを「小田掛け」「稻掛け」「稻架掛け」と呼びます。
脱穀も専用の機械で行っていました。
- 平成元年…コンバインが普及してからは、稻刈りから脱穀、風選(選別)まで同時にできるようになり、大幅な省力化がなされました。

今では、手刈り、天日干しの光景は全く見かけなくなりました。
コンバインで一気に刈り取り、稻わらはその場でコンバインがカットして、そのまま田んぼに置かれます。さらにコンバインが自動で脱穀します。
「脱穀」という言葉自体、今では懐しいと感じます。

とありました。(この辺りははざかけの風景まだまだ残っていますよね!)

今年は刈った稻を数束持ち帰り、ひっぴー(はざ掛け)していました。
2週間干し、きのうから子どもたち、スタッフの手で脱穀(稻からもみをはずす)
作業が始まりました。持ち帰りた数束分だけの予定ですが、脱穀のあと、
すり鉢に糲を入れボールでゴリゴリ(瓶と棒でも)糲搗りをして玄米にして…
やり方だけを見たら江戸時代までワープできそうですね。

稻刈りと言えばお米作りのクライマックスですが、食べられるまでには
もう少し時間がかかりそうです。

種まきから始またお米作り、みなさんと味わえる新米まつりが
もうすぐで楽しみです。